
遊戯王GX 時代を超えた転生者

アマ公

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX 時代を超えた転生者

【Zコード】

Z6547Z

【作者名】

アマ公

【あらすじ】

子供を助けて死んでしまった「南 彩人」がいろいろなデッキを使つて遊戯王GXの世界を過ごしていく。

シンクロやHCKシーズをしますのにがてなたは読まないよつこしてほしいと思います。

できれば感想などを書いてもらえたると主のやる気がでるのをお願いします。

序章（前書き）

初めまして「アマ公」です。

初めて小説を書いたのでわかりずらいところもあると思いますが、暖かい目で見守ってもらえると幸いです。自分のペースでできる限り投稿していきたいと思います。

side???

小説でよくある話かもしれないけど俺は今神様の前にいる。

神様曰く俺は一度車にひかれそうな子供を助けて自分が死んでしまつたらしい。

そこで俺は神様に気に入られたようで遊戯王GXの世界に転生させてくれるらしい。

俺の名前は「南 彩人」（みなみ さいと）遊戯王が好きな高校生だった。

生前はテレビで遊戯王ZEXALがテレビでやっていたのを覚えていいる。

side out

「お前は生前に体を張つて子供を助けたいいやつじゃったからの〜そのまま逝かせてしまうのは惜しいからお前の好きな遊戯王の世界に転生させてあげようと思いつのじやよ」

つと神様が言つてくださいましたので

「それじゃあよろしくお願ひします。」

「それでじゃ、転生させる事になにかオプション的なものをつけてやつてもいいのじやがどうする?

なにか希望する事はあるかね?」

「それじゃあ、今俺が使つていいるカードとティックを持つていいたいのと原作に出でくるキャラクターと同じくらの「ティースティード

口ーをお願いしたいです。」

「それぐらいなら構わんじゃる」「シンクロモンスター やエクシーズモンスターも持つていいくのかね？」

正直、遊戯王GXに出でこないシンクロモンスター やエクシーズモンスターを持つしていくのはどうかと思つたが、やつぱりもつていきたくな。

「シンクロモンスター やエクシーズモンスターもお願いします。」

「わかったのじゃ、それじゃあカードは隨時送ることにしてみや。」

これから好きな遊戯王の世界にいけると懇つとなんだか楽しみになつてきたな！

楽しいデュエルをたくさんできるといいな……

「それじゃあ転生させるぞ」

「入学試験当日におくるからのおー新たなよー人生になるよつて儂も力をかすからの」

こうして俺の新たな人生が始まりを告げる。

序章（後書き）

文章考えるのって難しいですね（泣）

次は入学試験です。

デッキはその時に紹介したいと思います。

第一話 入学（前書き）

2話目です。

今回はヒロインになる予定の女の子のヒュエルです。

ハツキリ言ってた強いですはい。

クリスティア苦手ですね。

第一話 入学

本当に遊戯王GXの世界に転成者してきたんだなあ。

目の前にある海馬ドームを見上げながらそう思った。

「記憶はちゃんと残ってるんだな」

腰にはデッキがひとつついていて、

腕にはデュエルディスクがついていた。

「突っ立つても仕方ないし中に入るか。」

中に入つてみるとすでに実技試験が始まっていた。

「そういえば俺つて受験番号何番だっけ？」

ゴソゴソとポケットの中から受験票を取り出して見てみると。

「受験番号1112番 みなみ さいと 南 彩人」

原作では十代が110番だったはずだから俺の他に原作にはいなかつた人がいるってことか。

「てか俺つて十代よりバカつてことか！」

自分で突っ込んでしまった。orz

そんなことを考えて落ち込んでいると…

「へへへー スカイスクレーパーシュート！」

「アーノルダーヤー 私の『古代の機械戦士』が

やつぱりソロジデジジョンはかつへな?

十代に負けて落ち込んでるクロノス先生が退場して新たな試験官が出てきた。

「次! 受験番号1-1-1番!」

「は……」

緊張してこらのか少しおどおどしながら女の子が出てきた。

「デッキを『ティスクにセシトすらべりこ』は少し落ち着いてきたみたいだ。

「それでは試験を始める」

「『トコモル?』」

「私のターン ドロー!」

先行は試験官からのようだ。

「『シャインエジュル』を守備表示で通常召喚」

守 800

「リバースカードを一枚セツト
「ターンエンド」

「私のターン ドロー」

「手札から『大嵐』を発動します」

「何?」

リバースカードは激流葬とミラーフォースか危なかつたな。

「さらに手札から『ヘカテリス』を捨てて効果発動します、デッキから『神の居城—ヴァルハラ』を手札に加えます。」

「そして手札から『トレードイン』を発動します。」

「手札交換カードか」

「手札事故でも起こしているのかな?」

手札交換カードを使って手札事故とか言つてる時点で負けフラグだよな。

俺の予想が正しくて手札に蘇生カードがあつたら女の子の勝ちだな。

「手札から『神の居城—ヴァルハラ』を発動します、そして手札から『墮天使アスマディウス』を特殊召喚、そして効果発動、デッキから『大天使クリスティア』を墓地に送ります。」

「手札から『死者蘇生』を発動します。墓地の『墮天使スペルビア』

を特殊召喚します。

『スペルビア』の効果で墓地の『クリスティア』を特殊召喚します。

「

あーあ、

あの試験官終わつたな。

まだいけるみたいな顔してるけど『クリスティア』の効果知らないのかな？

「バトル！」

「『クリスティア』で『シャインエンジェル』に攻撃します。」

「……」

名前が思いつかないらしい。

いつの間にか『クリスティア』が『シャインエンジェル』を切り裂いていた。

「くつ やるな！ だが『シャインエンジェル』が戦闘で破壊された時デッキから攻撃力1500以下のモンスターを特殊召喚できる！」

「私はデッキから 『クリスティア』がフィールドにいる限りお互いに特殊召喚をする事ができません。」 なんだと？

「残り2体のモンスターでダイレクトアタックします！」

「ぐああ～～？」

LHFE 4000 - 11900

「ありがとうございました」

小さくお辞儀をして女の子はテュエル上から降りて行つた。

後攻ワンターンキルですか。

目立つ事するなあ～ww

会場がざわついてるよ～

「さて、次は俺の番か～～ちょ楽しんできますか！」

第一話 入学（後書き）

始めてデュエルしてるとこ書きましたが難しいです（泣）
技の名前は思い浮かばなかつたので今回ははぶきましたw

よくわからないかもしだせませんが暖かい目読んでやってください。
それでは次回彩人がデュエルします。

第一話 シンクロ召喚 やっぱりワンキル！？（前書き）

今回は彩人君のデュエルです。
結構悩んだんですけど最初からシンクロしていくことにしました。
それではクロノス先生の悲惨なデュエルをお楽しみください　ww

第一話 シンクロロ由喰 やつぱりコンキル！？

side彩人

受験番号111番の女の子の「テュエルが終わって俺が呼ばれる番がやってきたようだ。

俺の相手は誰なんだろうな？

そういうえば腰にひとつデッキついてたけど中身確認してなかつたww
どうしよう、なんのデッキかわからんいや。

まあデュエルが始まつてからのお楽しみと云ふことにしておこうかな。
俺が前世で使つていたデッキなら正直この場で負ける気はしないからな。

自分のデッキを信じて楽しくデュエルとでもこきますかね。

side out

「次つ！ 受験番号112番！－！」

「ほーい

つと呼ばれたのでデュエル上に上がつてみるとそこにはクロノス先生が立つていた。

やっぱり試験の相手はクロノス先生じゃないとねww

「さつものドロップアウトボーイにせりあつたつをせりじをしてやる
ノーネ。」

「恨むならさつきのドロップアウトボーイを恨むノーネ。」

「すいませんが負けてあげるつもりはないのよお願いします。」

「

「楽しいデュエルにしましょう。」

「ドロップアウトターが何ぼぞくノーネ！！」

「返り討ちにしてやるノーネ！！」

「「デュエル！…」」

「私のターンなノーネ ドロー二回」

どうやら先行はクロノス先生らしい。

「私は『トロイホース』を攻撃表示で召喚なノーネ、そして手札から『デュアルサモン』を発動するノーネ、『トロイホース』を生贊にして最強のモンスター『古代の機械巨人』を攻撃表示で召喚するノーネ。」

A / 3000

さすがはクロノス先生、最初のターンで『古代の機械巨人』を召喚していくなんてな。

最後のころの改心したクロノス先生は好きなんだけだ。

「リバースカードを2枚セット、ターンエンドなノーネ。」

クロノス・手札1枚

私のアンティークギア『ゴーレム』を破壊できるとは思わないけれど、一様念には念を入れとくノーネ。

リバースカードは『リミッター解除』と『リラーフォース』なノーネ。

『パンにしてやるノーネ。

「俺のターン ドロー！」

おおっ、この『テッキ』は俺が使ってた『テッキ』で安定して強かつた『テッキ』じゃんか

しかもこの手札・・・ぶつちやけワンキルじゃん

「俺は手札から『大嵐』を発動！」

大嵐つてほんと強いよなあ

一枚でとるアドバンテージじゃないよな。

「ペペロンチイーノ！？」

危ない危ないww

あんな危ないもん伏せてるなんてどんだけ手札いいんだか。
まあ俺も人のこと言えないかww

『『未来融合』・フューチャー・フュージョン』を発動！ 対象は『
F・D・G』『デッキから素材として『ドラグニティアームズ』・『レヴ
アティン』2枚と『ドラグニティアランクス』2枚、『ドラグ
ニティアキュリス』を墓地に送る。』

会場のみんながざわざわしている。

そもそもこの時代に『ドラグニティ』はないからな。

「聞いたことがないモンスターなノーネ

「これから忘れられないよ『アカラマ』してあげますよ

「なにを言つて居るノーネ、私の場には攻撃力3000のアンティ

ークギア『ゴーレム』がいるノーネ。調子に乗るのもいい加減にするノーネ！」

しかし『フューチャー・フュージョン』って強いよな、特にドラゴン族の『テッキ』の墓地肥しに関しては一級品だよ。

『そりに手札から『ドラグニティードウクス』を攻撃表示で召喚』

A / 1500 1700

『『ドウクス』は召喚に成功した時に墓地に存在するレベル3以下のドラゴン族・ドラグニティをこのカードに装備することができる。そしてフィールド上のドラグニティの数×200攻撃力がアップする。効果で墓地の『ファランクス』を装備』

A / 1700 1900

「そんな雑魚モンスターの攻撃力がその程度上がつたところでなんの問題もないノーネ」

『ドウクス』を強化するのが目的なわけないでしょ。

『そして『ドウクス』に装備されている『ファランクス』の効果発動！このカードが装備カードとなつているとき装備を解除してフィールドに特殊召喚することができる。現れるチューナーモンスター『ドラグニティーフアランクス』！』

D / 1100

「「「「？」」「」」

「チューナーモンスターってなんなんノーネ！？ 聞いたことないノーネペペロンチイーー」

会場のみんなも気になつてているようで首をかしげている。

「それについては後で説明してあげますよ。」

「レベル4の『ドゥクス』にレベル2の『ファランクス』をチューニング」

「神の力が槍に宿りて。われの道を切り開かん！シンクロ召喚！突き刺せ『ドラグニティナイト－ヴァジュランダ』」

A / 1900

「「「「「...?」」」」

会場のみんなが啞然としている。

「どうなつてているノーネ、そのモンスターはどうやつて出つてきたノーネ！？説明してほしいノーネ！！」

「シンクロ召喚はチューナーモンスターと呼ばれるモンスターとチューナー以外のモンスターのレベルを足して特殊召喚する方法です「レベル4の『ドゥクス』とレベル2のチューナー『ファランクス』でシンクロすることでレベル6の『ヴァジュランダ』を特殊召喚したわけです。」

「驚いたノーネ 初めて見たノーネ それでもただの攻撃力190のモンスターじゃわたしのモンスターは倒せないないノーネ。焦らせないでほしいノーネ」

「焦らないでほしいですね『ヴァジュランダ』の効果発動、墓地からレベル3以下のドラゴン族・ドラグニティを装備することができ、効果で墓地の『アキュリス』を装備！」

「そして手札から『死者蘇生』を発動！墓地の『レヴァテイン』を特殊召喚！」

A / 2600

「『レヴァテイン』は特殊召喚されたとき墓地のドラゴン族を装備することができる！もう一『ファランクス』を装備、そして『ファランクス』の効果で特殊召喚！」

「リバースカードを2枚伏せレベル8の『レヴァテイン』にレベル2の『ファランクス』をチューニング」

「3つの首を持つ龍よ。その巨大な力で敵をねじ伏せろ！シンクロ召喚！『レヴァテイン』！」

A / 3000

「『ドラギオン』は召喚に成功した時自分フィールド上のカードを破壊することでその枚数分攻撃することができる！リバースカードを2枚破壊して3回分の攻撃の権利をえる！」

「3回攻撃ができるとしてもアンティーケギアゴーレムと同じ攻撃力じゃどうしようもないノーネ」

正直焦つたノーネ

「『ヴァジュランダ』の効果は装備するだけじゃないんですよ先生」

「なんですかーのペペロンチーノパルメザンチーズ！？」

「『ヴァジュランダ』の効果発動！装備カードを一枚墓地に送ることで攻撃力を倍にする！」

A / 1900 3800

「攻撃力3800とかありえないノーネ アンティーグアゴーレムが戦闘で負けてしまうノーネ」

「そして墓地に送られた『アキュリス』の『効果発動！装備状態のカードが墓地に送られたときフィールド上のカードを一枚破壊する！ 先生の『古代の機械巨人』を破壊します』

「戦闘じゃなくて効果で破壊されてしまったノーネ！？」
「これじゃ場ががら空きなノーネ！！」

「バトル！！」

「『ヴァジュランダ』で先生にダイレクトアタック

「雷牙槍！」

雷をまとった槍で先生を突き刺した。

LP 4000 200

「ドрагон』でダイレクトアタック』

「破滅のトライデントストリーム』 3連打ああああーー！」

5連打^{カイザ}的なノリで書いてみたけど案外楽しいかも知れないww

「なんでこうなルーノ ペペロンチーノ！？」

LP200-8800

「楽しいトコモルでしたよ先生、またやりますようね トライマニア

第一話 シンクロ召喚 やつぱりワニキル！？（後書き）

長い文になつてすいませんでした。

最初はやつぱりワニキルでしめないとダメですよね ｗｗ

彩人の最初のデッキは『ドラグニティ』でした。

普通に強いですよ ｗｗ

ペペロンチーノ個人的に好きです ｗｗ

次はたぶん短めの分になると思われます。

デュエルが終わつた後を書いていきたいと思います。

第三話 フラグ立てちゃった？（前書き）

今回はテュエルなしだ。

彩人君はなんかフラグ立てちゃつてます。

第二話 フラグ立てちゃった？

「楽しい『デュエル』でしたよ先生、またやりますようね トライウマに
ならないといいですねww」

side???

私は彼の『デュエル』を見ていてとてもかつてこのように想い彼に興味をもつた。

シンクロ召喚という未知の召喚方法を使ってあの変な先生をワントーンキルしてしまった。

正直とてもかっこよかつた。

なんだかうそつきから彼のことが気になつてる。

こんな想いになつたのは初めて……

side out

side 彩人

「派手にやぢやたけどだいじょうぶだよな。」

「」

そんなことを考へてみると回りから十代達がやつてきた。

「すげー『デュエル』だつたなーーーあんなの初めて見たぜ！ 俺、遊戯十代。気軽に十代でいいぜ。」

「なんかすごい目立つてたつすよ、だけどかつてよかつたす。僕、遊戯丸藤 翔。翔でいいすよ。」

「君の『デュエル』には興味があるからそれを調べてみたい。僕は

三沢 大地だ。よろしく

いきなり原作キャラとコントクトとっちゃたよ
これも神様の加護つてやつかな？

「三人ともこれからよろしくな。俺は南 彩人だ。彩人って呼んで
くれ。」

「それより俺とデュエルしてくれよ！彩人のかっこいいモンスター
をみたいぜ！…」

なにいつてんだかこの霸王は、さすがに目立ちすぎた。今日はもう
あんまり目立ちたくないんだよな。

「わるいな十代、また今度な。」

「ええ～、デュエルしようぜ～～。」

十代にせがまれて困つていると。あのワンキルしてた女の子をみつけた。

「ちょっと用事ができた、じゃあまた今度な。」

「十代、入学したらデュエルしようぜ。」

「わかった、絶対だからな！」

「また今度です。」

あれ？だれか忘れてる気がするけどまあいいか。
あの子に話しかけてみよ。

「おおーい」

side out

side???

「おおーい」

「さやつー!？」

突然さつきまで考えていた彼から声をかけられて驚いてしまった。

「わるい、驚かせちまつたな。」

近くで見ると案外かつこいいかも。

「どうした?俺の顔になにかついてんのか?」

「どうやらじつと見てしまつたらしい。

「何でもないです……どうしたんですか?」

side out

side 彩人

声をかけたら驚かれてしまつた。

「わるい、驚かせちまつたな。」

なぜか俺の顔をじっと見ている。案外かわいいかもしれない。

「どうした？俺の顔になにかついてんのか？」

「何でもないです……どうしたんですか？」

「さつきあの先生相手にワンキルしてただろ？つよいんだな～って思つてな。」

「それと後ろにいる小さな大天使も気になつてな。」

俺もさつき十代の時に気づいたんだが精霊が見えるようになつたらしい。

正直おどろいた、後で十代にも教えておひつ。この子が気になつて言いそびれちまつたからな。

「この子が見えるんですか？」

「ああ、さつきの『デュエル』で活躍してた『大天使クリスティア』だろ？」

そう彼女の背中には『デフォルメされた『クリスティア』』がいる。

「自己紹介がまだだつたな、俺は、南 彩人だ。 彩人つて呼んでくれ。」

「私は須藤 アキつていいます。下の名前で呼ぶのは少し恥ずかしいです。」

「わかつたアキな。 できれば慣れてるから下の名前の方がいいんだ

が、まあ恥ずかしいならしかたないか。」

「俺には精霊はいないんだが精霊が見える者同士よひしへな。」

「はい、よひしへ願いします。」

そのあと雑談したり、連絡先などを交換してわかれたり

「しかし、あの子かわいかったな。」

顔をじっと見られたときほんの少しへキッドキッドしてしまった。

「俺も精霊が見えるとわな。」

「まあ深く考へても仕方ないな。楽しくテコロルできればそれでいいや。」

side out

sideアキ

声をかけられたときはびっくりしてしまった。

近くで見たらかっこよかったですからすこしへキッドキッドしてしまった。

「南さんも精霊が見えるとはおもわなかつたな。」

「話してて楽しかつたな。また会いたいかも。」

第三話 フラグ立てちゃった？（後書き）

やつぱり書くのって難しいですね。

アキちゃんの登場です。

後でキャラに関しては紹介したいと思います。

誰か途中から忘れています。

次はサンダーさんが出てくるかもしれません。

第四話 方向音痴の残念な子（前書き）

今回はデュエルないです。

万丈目さん少ししか名前でないです。

アキと彩人急に仲良くなつてます。

今回は面白い感じになつていればいいと思います。

第四話 方向音痴の残念な子

side 彩人

入学試験から数日がたつて合格通知が来た。
この数日何をしていたかというと。

この時代のことを調べたり、アキと連絡を取つたりしていた。
この時代の禁止制限は本当にゆるい。

『強欲な壺』や『天使の施し』、極めつけは『苦渋の選択』だろう。
墓地確認などがないため本当に強いと思う。

俺が使つていたデッキでは、自分のデッキを削つていき最後には墓地から特殊召喚などのギミックを使つたデッキを作つていた。
墓地確認がないためより奇襲がかけやすくなつたと思う。

今はカードが数枚と『ドラグニティ』のデッキしか持つていない。
神様が隨時送つてくれると言つていたからアカデミアにおいてあるのかもしれない。

まあ、持ち運ぶ手間がなくて済むのだが、正直デッキをいじつてみたくてしようがない。

「アカデミアで楽しいデュエルがいつぱいできればいいな。」

side out

数時間後船で気持ち悪くなつたのは別のはなし。

「やつとついた。」

死ぬかと思った、船にはもう乗りたくないな。

「ワンキル決めたのにオシリスレッドかあー。まあオベリスクブルーとかより全然いいんだけどな。」

船の中で渡された制服は赤色だった。

「さて、そろそろ寮に向かうか。」

このとき彩人は寮の方向とは全く別の方向に進んでいた。これは気づいていない。

「これは俗にいう迷ったといつやつなのか？」
森の中をさまよっていた。

そいつー森に入る前に普通氣づくだろとか突っ込まないーー！

「どうすっかな、腹減ってきたな。」

入学初日に遭難とか笑い話にしかなんねえよ。

「この学園内で連絡先知つてんのアキぐらいしかいないんだよな。
そいつー友達いないんだよな。とか突っ込まないーー寂しくなるだ
らうがーー！」

PDAを取り出しあきに電話をかけてみることにした。
数回呼び出し音が鳴った後アキが出た。

「もしもしー？」

「どうでもいい話だが、この数日でアキとは仲良くなつた。

「森で迷つてしまつた。」

「…ふつ 天使さんを迎にいかせるね！」

「どうでもこことなんだけどさ、今笑ったよね！？
しかもこの状況で天使迎にいかせるつらいやにならないからね？」

「じゃあすつとやにいれば？」

「…」めんなれこ。」

そんな話をしつづると『クリステイア』が迎えに来てくれていた。
すでに迎を出してくれていたなんて
いいやつや…

「今『クリステイア』が迎えに来ててくれたよ。
「ありがとうな」

「どういたしまして。」

「じゃあ、また今度な。」

PDAをしまつて『クリステイア』についていくとまびまびの寮に
ついた。
寮につくと『クリステイア』はかえつていった。

「やつぱりぼろいな。」

自分の部屋を見つけて中に入つてみると。

「すこ量のダンボールだな」

部屋には大量のダンボールがあり大量のカードが入っていた。
デッキはひとまとめになつており、カードもきちんと整頓されていた。

「さて、歓迎会までの間にデッキでもいじるかな。」

確認していくと、宝玉獣をはじめとしたこの時代の特定の人物しか持っていないカードも3枚ずつ入っていた。
さすがにそれには驚いた。

「まあ、さすがにこの辺は使えないよな。」

しばらくこじつていると歓迎会の時間になつていた。

歓迎会はそれなりに楽しかった。

そして今、十代達の部屋にいる。

「なるほど、万丈目とかいうやつに目をつけられたわけだ。」

「なら、お前らのデッキを少し強化するか。もちろんお前らが望むならだが?」

「そんなことしてもうつていいのか?」

「ああ、幸いカードは俺の部屋にたくさんあるからな。」

「面白そだだから俺はお願いするぜ!」

「僕もお願いするつす!」

二人のデッキをいじりつつ二人の個性を生かすために三人で散々悩んでデッキが完成してPDAがタイミングよくなつた。

どうやら十代を呼び出したみたいだな。

「どうする十代？いくのか？」

「当たり前だろ！」デュエルがしたくてウズウズしてるんだからな！」

「それなら俺もついていくとしよう。」

「サンキューな。」

「なら僕もついていくす。」

そして三人してデュエル場へと向かつた。

第四話 方向音痴の残念な子（後書き）

十代と翔のテツキ強化しました。

ちなみに今の段階ではシンクロは詰ませていません。
純粋にHEROビートです。

次回はちゃんとテコエルがあります。

第五話 ＶＳ万丈目（前書き）

はつきりいって悲惨なデュエルです。
万丈目さんかわいそうです。

「よく来たなー。ドロップアウトーー逃げずに来た」とを讃めてやる
「う。」

うわあ～いきなり小物つぽこ」と叫びながらやつてゐる。恥ずかしくないのかな?

「 つ わた む あ あ あ あ あ ～ ～ ～ ～ 」

あつたな。

「わるい。思つたことがつい口に出てしまつた。」

「やつ我慢できません…そつちのドロップアウトかい唇も潰してやれやつと悪ひたが計画変更だ…！お前から呪き潰してやる……！」

「いいけど、俺はわざと負けてやるほど優しくないぞ?」

「よくわからぬまで俺をこなしててくれたなー。」

を俺によーせー。ー。」

シンクロモンスターだつけてあってもどうするんだか。
こいつやつぱりばかだる。

「俺が勝つたら何をくれるだ？」

「ふんっ、そんなことさせ絶対にないが、もし本当に負けたら何でも好きなカードをやります。」

「その言葉忘れるなよ。」

「なんか俺らおこでかれてるな。」

「そうですね。」

ぼやいてる一人がいたそ�で。

「「デュエル…！」」

「俺のターン ドロー」

俺の先行。

原作では、ガードマンが来て途中で終わるんだつたな。早々に決着をつけないと。

正直カードはいらなーがこいつのプライドはへし折つてやりたい。

「「」のデュエル早くおわせそうだな。」

「なんだとキサマー嘘をついてなこでわざとターンをすすめうー。」

「言われなくてもわづるや。」

「俺はモンスターを一枚伏せ手札から『ガーディアン・エアトス』を特殊召喚。」

「レベル8のモンスターを生贊なしで特殊召喚だと！？」

「彩人君、あんなすごいカード持つてたんすね。」

「か、いい、俺も彩人と元エアルしてえ、」

「『ガーディアン・エアトス』は墓地にモンスターがない時、特殊召喚することがている。」

「リバースカードを4枚伏せてターンエンド。」

彩人：手札

モントク

「俺のターン ドロー！」

「俺は『リボーン・ゾンビ』を守備表示で召喚！」

D / 1600

「さらにリバースカードを1枚セット ターンエンド。」

どうでもいいからこの辺の原作は覚えていないが。

「エンドフェイズに、『サイクロン』リバースカードを破壊するー。」

「なんだとー！俺のカードが！？」

『ヘル・ポリマー』か、わりとどうでもいいが。

万丈目：手札 4

モンスター 1

リバース0

「俺のターン ドロー。」

「スタンバイフェイズにリバースカード発動。『チヨーン・マテリアル』、このカードを発動したターンのエンドフェイズまで融合素材を、デッキ・手札・フィールド・墓地から除外することで素材とすることができる。」

まあ、攻撃宣言できないことや、エンドフェイズにフェイズに破壊されるデメリットがあるがこのデッキでは関係ない。

「伏せていた『メタモルポット』を反転召喚。」

「効果でお互いに手札をすべて捨て5枚ドローする。俺は1枚カードをってる。」

「ちつ俺は4枚だ。小賢しい真似を。」

「手札からフィールド魔法『フュージョン・ゲート』を発動。お互に融合する場合融合素材を除外することで融合をおこなえる。」

「『チーン・マテリアル』の効果発動。『ツキから『E・HEROオーシャン』と『E・HEROフォレストマン』を除外して融合召喚。』

「希望を力に変える最強のHERO! いでよ。絶対零度のHERO『E・HEROアブソルートnero』」

A/2500

「アニキと一緒にE・HEROです!」

「俺にくれたカードの中にも入っていたけど。彩人もHEROを使うんだな!」

「『アブソルート』をリリースして、手札から『カタパルト・タル』を守備表示で召喚。」

D/2000

「この瞬間『アブソルート』の効果発動! このカードがフィールドを離れたとき、相手のモンスターをすべて破壊する!」

「なんだと! フィールドを離れるだけで効果が発動するモンスターだと!」

「どうせ『』のターンで終わりのようだな。」

「そんなはつたりは俺にはきかん！」

「まだライフは4000ものつこつているんだ」

「4000しかの間違いだろ？」

「さらに『チエーン・マテリアル』の効果発動。今度は、デッキから『E・HEROバブルマン』・『E・HEROフェザーマン』・『E・HEROバーストレディー』・『E・HEROクレイマン』を除外して融合。」

「すべてを優しく包み込む光を放て！『E・HEROエリクシーラー』」

A/2900

「召喚に成功した時除外されているカードをすべてデッキに戻す。」

「さらに『カタパルト・タートル』の効果発動。」

「『ヒリクシーラー』をリリースして、攻撃力の半分のダメージを与える。」

LP4000 2550

「もうわかつたよな万丈目？」

「こんなことはありえない！俺が何もできずに負けるなんて…」

「もう一度『アブソルート』を召喚し、『タートル』の効果発動」

LP2550 1300

「『ヒリクシーラー』を召喚し、『タートル』の効果でリリース。」

LP1300-1150

「俺がなにもできず負けるだと。」

万丈目が膝をがっくりついて悔しがっていた。

「楽しいデュエルだつたぜ万丈目。次はちゃんと戦えるようにしろよ。」

はいそこつーえげつないデッキ使ってるくせによく贏つよつて田で
みない！

いつの間にか明日香も来ていた。

「あなたつてひどい人なのね。」

なんか俺の評価下がつた。

「やばいは、ガードマンが来たは！」

それから各自解散して寮に戻つていった。

「南 彩人。面白いひとね。」

明日香の評価が上がつたようだ。

第五話 ＶＳ万丈目（後書き）

『チヨーン・マテリアル』と『フュージョン・ゲート』の愛称は抜群です。

純粋なビートにも使えます。

『エアース』出した意味がない。

墓地の調整が可能なので入つてます。

遊戯王のアニメではそうは出てこないバーンデッキにしてみました。この「ンボを止めるのは結構大変です。なにげ今まで書いてる『コエルワンキルなんですよ。次ぐらいからはちゃんとした対戦にするつもりです。

第六話 人物紹介と設定（前書き）

今回は人物紹介とデッキの説明をしていきたいと思います。

第六話 人物紹介と設定

『南 彩人』 身長178cm

体重68kg

見た目は想像では、エア・ギアに出てくる南樹みなみ いつきを大きく成長させた感じです。

しつかり者ではあるが、天然が入っていてボケたりしています。最近アキのことが気になり始めているこの物語の主人公。いろいろなデッキを使うことができるタクティクスを持ち合わせていて神様にもらつたドローの運もあり普通に対戦しているとワンサイドゲームになることもしばしば。

友達や大切な人を傷つけられると我慢できない性格。後先考えずにつっぱりてしまいがち。

今までに使用したデッキ：「ドラグニティ」（忍者の登場などいろいろな派生がある安定感があるデッキ。『竜の渓谷』を引けば毎ターンシンクロにつなげができる。

ただし、長期戦になつてしまふとサーチしてくるモンスターが尽きてしまうので、早々に決めるか、『ガルドスの羽根ペン』や『貪欲な壺』などが必要になる時がある。使う前に終わることがほとんど。）

「マテリアルHERO」（バーンやビートもできるなかなか面白いデッキ。必須カードは『フュージョン・ゲート』『チーン・マテリアル』『エリクシーラー』を融合するための素材。あとは『サイクロン』や『大嵐』を対処できるようすればワンターンキルも可能。）

これからもいろいろなデッキを使用する予定です。

儀式に特化させたデッキなども使います。

「須藤 アキ」 身長160cm

体重50kg

スリーサイズ？？？（教えてくれませんでした。）

見た目は想像では、エア・ギアに出てくる野山野^{のやまの}林檎^{りんご}を幼くした感じ。

出るところ、ルタイル抜群です。

性格は、おとなしく恥ずかしがり屋で人見知り。彩人には心を開いている。彩人相手だと違った一面を見せる。案外Sだったりするのかもしれない？

今までに使用したデッキ：「終世」（『ヴァルハラ』や『死皇帝の陵墓』などから高攻撃力のモンスターが出てきて場を制圧。『クリステイア』『光と闇の竜』などで相手の反撃を許さない。）某カードショップのデッキを使わせてもらっています。一様このデッキを主にやっていく予定です。

ご要望があれば感想などを書いていただければ考えていくたいと思います。

人物紹介はこんなところにしたいと思います。

彩「こなんくだらない小説だが、読んでくれるとうれしい。」

ア「よろしくお願ひします」ペコッ

彩「かわいいな」

ア「…／＼／＼」

ラブコメになつてきた二人は置いといて次回はラブレター事件を書く予定です。

まだ彩人とアキはお互いの気持ちに気づいていないという設定についていますので、その辺を「理解お願いたします。

第六話 人物紹介と設定（後書き）

感想を書いてもらえるとうれしいです。

第七話 伏線？ 本当に怖いのは？（前書き）

今回は『ユーノル』ないです。

今主は運が尽きていて最悪です。

自転車に追突されたり。

失恋したり。

いくつか買い物したら一つ袋に入れられてもらえず、寒い中もつ一度取りに戻つたり。

そんなんで投稿したのでグダグダです。

第七話 伏線？ 本当に怖いのは？

「やべえやつぱりアキは強い。俺がこんなに追い詰められるなんて。」

「うぬぼれじやないが」の世界に来てから、もとからあつたタクティクスに加えて神様からもらつたドロー運がある。なのに追い詰められている。

「このドローで決まるんだな。」

俺は目を閉じて自分のデッキを信じ静かに引き抜いた。

「彩人あ~~~~~翔がさらわれた！！」

「いきなり入つてきてそれじゃよくわからない。ちゃんと説明しろ。」

「まあ、原作を覚えているから十中八九偽のラブレターでクロノスに騙されて風呂を覗いたという事で捕まつたんだろ。」

「さつきメールで、『マルフジショウハウアズカツテイル。カエシテホシクバ、ジョシリョウニコラレシ。』ってきたんだよ。」

「やうが、そういえばさつきアキからもメールが来ていたな。」

「それはいつものラブラブのメールだろ？」

「いいから聞けバカ。『ええーと、もし大丈夫だつたら女子寮のところまで来てくれないかな?』」

「やつぱつラブラブだな！」

「ラブラブでもないし、いつもメールか電話だ。そういう呼び出されることなんてないだろ? さつきのメールに関係してるのは丸わかりだろ。」

「やうが、俺は行くけど彩人はどうする?」

「俺も行く。」

もし本当に翔が風呂を覗いてアキが見られたとしたら… 翔の命は今日までだな。

二人して女子寮へと向かつた。

なぜわざわざボートを漕いで湖の上で話をしなければいけないんだ? ボートの上には手足を縛られてとらえられている翔と、明日香・もえ・じゅんこ、そしてなぜかアキがいた。もしかして本当に翔は覗いたのか?

「んつでなんで翔は捕まってるんだ?」

「」いつがお風呂を覗いたのよ。」

「アニキ～～彩人君助けて「うるせえ黙れ。」ええ？」

「アキお前も覗かれたのか？」

「わかんないけど…一緒に入ってたからもしかしたら…」

「俺はそつち側について翔を殺すとしよう。」

「ちょっとまつてほしいっす！！僕は覗いてないっす！！！」

「…ほんとうだな？」

「すこし黒いオーラと殺氣をだしながら聞いた。

「ひつ！？絶対っす！！！神様にちかうっす！」

「わかつた。それならいい。」

笑顔で答えてやる。

この場にいた誰もが彩人を敵に回してはいけないと感じた瞬間だつた。

「つでどうしたら翔を返してくれるんだ？」

一番最初に立ち直った十代が訪ねた。

「デュエルをして勝つたら返してあげるは。」

「わかった。どうこの風にに『テ』ユエルするんだ?」

「私と十代。アキと南君でどうかしら?」

「どうでもいいんだが南君についてはやめてくれないか?彩人でいい。」

「わかったわ。だけどあんまりそんな事言つて私の隣の子に殺されないといいわね。」

明日香の隣でアキが変なオーラを出してこちらを見ていた。

「ええ~ど~めんなれ~...」

「彩人君その口閉じよつか?」

「以後気を付けさせていただきます。」

「「「「「やつやまでの彩人の面影ねえ~~~~~!」」」

「やるそろ『テ』ユエル始めましょつか?」

「わかった。」

「どんな『テ』ユエルができるかわくわくしてきたぜ!」

「彩人君よろしくね」

先に十代と明日香がデュエルを始めるようだ。
一緒にやらないのかって？

お互いにデュエルが見たいんだから仕方ないじやん。

「「デュエル！！」」

第七話 伏線？ 本当に怖いのは？（後書き）

最初の文はアキと彩人のデュエルの伏線です。

裏スリ作ったりデッキ作つてたら更新遅れてしましました。

第8話 明日香vs十代（前書き）

十代の強化されたテッキのお披露目です。
そこまで強化はしませんでした。
ドロー云々で十分すぎるのです。

第8話 明日香VS十代

「「『デュエル！…』」

「先行は私、ドロー」

「『『エトワール・サイバー』を攻撃表示で召喚。』

A / 1200

「さりにリバースカードを一枚伏せてターンエンド」

明日香・手札4

モンスター1

リバース1

「俺のターン ドロー！」

確か『エトワール・サイバー』ってダイレクトアタックするとき600ポイント攻撃力が上がるんだよな。

その効果を十代が理解しているかはわかんないが…まあ十代の『デュエルは見てて面白いからいいものだ。

「手札から『増援』を発動！『ツキから』『E・HEROヒーローマン』を手札に加えてそのまま召喚。」

「『Hアーマン』の第2の効果発動!『デッキから』E・HEROバブルマン』を手札に加える。『

十代のデッキは俺が持っていたカードで強化した。

漫画版の十代のデッキに近づけながらもアニメ版のデッキを基本にしている。

その分、アニメ版よりは安定しているが、漫画版よりは安定していない。

強化しそぎてのちに出てくるネオスを手に入れるのを妨害したくはない。

「さりに手札から『融合』を発動!場の『Hアーマン』と手札の『バブルマン』を融合!『

「俺と彩人の絆を繋ぐカード!力を示せ!』E・HEROアブソリートzero』

A / 2500

「バトル『アブソルート』で『エトワール・サイバー』に攻撃!—Freezing at moment 『瞬間氷結』

私のリバースカードを警戒しないなんてなめてるのかしら?

「リバースカードオープン『ドゥーブル・パッセ』このカードは攻撃をダイレクトアタックにする。そのあと攻撃対象となつたモンス

ターでダイレクトアタックをすることができる。」

明日香 L P 4 0 0 0 1 5 0 0

十代 L P 4 0 0 0 2 2 0 0

最初から攻撃力が高いモンスターが出てくるとは思わなかつたは。こんなに L P が削れてしまつたけど次のターンに『エトワール・サイバー』を守れた。

融合に繋げて次のターンに置み掛けるは。

明日香つてこんな大胆な戦術をとるんだな！
俺にはこんな戦術おもいつかないぜ！やつぱり明日香はすばらしいな！

お互に L P を削られたな。

この世界では攻撃力 2 5 0 0 つて最初のターンからは出でこないのか？

まあなんにせよこのデュエルは短く終わりそうだな。

「俺はリバースカードを一枚伏せてターンエンダ。」

十代：手札 4

モンスター 1

リバース 1

「私のターン ドロー。」

「手札から『融合』を発動、場の『エトワール・サイバー』と手札の『ブレード・スケーター』を融合。」

「私の思いを背負いし戦士！舞い踊れ！『サイバー・ブレーダー』」

A / 2100

「『サイバー・ブレーダー』に『フュージョン・ウェポン』を装備。効果で攻撃力が1500アップする。」

A / 3600

「バトル！！『サイバー・ブレーダー』で『アブソルート』に攻撃！グリッサード・スラッシュ！」

「危なかつたぜ明日香、リバースカードを伏せてなかつたら大ダメージを受けるところだつたぜ！リバースカード発動！『融合解除』、『アブソルート』の融合を解除して墓地から融合素材となつた『エアーマン』と『バブルマン』を特殊召喚。『エアーマン』の第2の効果発動。デッキから『バーストレディー』を手札に加える。そして『アブソルート』の効果発動！相手フィールドのモンスターすべて破壊する！」

抵抗もできずに『サイバー・ブレーダー』は凍らせられていく。

「連續でこの状況からアドバンテージを稼いだ！？こんなのがりえないは！」

『エアーマン』の使いまわしと、『アブソルート』はHEROデッ

キの切り札の切り札的存在だ。ここに『オーシャン』が加わると『エアーマン』の使いまわしがひどくなつて過労死状態に。

「明日香のバトルフェイズはまだ続いているぜ?」

「メインフェイズ2でリバースカードを2枚伏せてターンエンドするは」

明日香：手札1

モンスター0

リバース2

「俺のターン ドロー。」

十代はドローしたカードをみて笑つた。

「明日香この『デュエルはこのターンで終わりみたいだな。』

「…」

「俺は手札から『大嵐』を発動!』

リバースカードは『奈落の落とし穴』と『攻撃の無力化』か、『奈落』つてww

結構ひどいカードいれてんだな。

「『融合』を発動手札の『バーストレーティー』と『フュザーマン』を融合!」

「マイフェイバリットヒーロー、飛び立て!『E・HEROフレイム・ウイングマン』」

A／2100

この状況でフレイムウイングマンを呼んだか。さすが十代というべきか。

「『フレイム・ウイングマン』でダイレクトアタックフレイムショート!」

LP1500 - 600

「ガツチャ、楽しいデュエルだつたぜ明日香!」

「私がこんなにあつさり負けるなんて。あなたの強さは本物のようね。」

「入学試験の時には見なかつたHEROが入つてたけど彩人からもらつたのかしら?」

「そうだぜ!彩人と俺を繋ぐ絆のカードだ!」

「そんな恥ずかしいこと言つてくれるな十代。」

「まあ、なんにしてもいいデュエルだつたぜ。」

「負けちやつたけど楽しいデュエルだつたは、次はアキたちのデュ

エルね。」

「うん 楽しいデュエルができるといいな。」

「アキは強いからな。全力でいかせてもらひ。」

正直『クリスティア』と『光と闇の竜』を出されたら積むからな。
あのデッキを使ってみるかな。
エースモンスターを先に出さないと厳しいかもしね、だけどそ
こが面白い。

「さて始めようか。」

「「デュエル！！」」

第8話 明日香▽S十代（後書き）

『エアーマン』と『アブソ』は強いですよね。
大抵融合すると『アブソ』を出しますよね。

次回はやつとアキと彩人のデュエルです。

5dsのエースモンスターを出したいと思っています。
アキのデッキの関係上特殊召喚を生かすデッキは難しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6547z/>

遊戯王GX 時代を超えた転生者

2011年12月31日18時51分発行